

多治見市文化・体育施設指定管理者候補団体選定
及び評価委員会会議録

日時：令和3年7月28日（水）14：00～16：20

場所：感謝と挑戦のTYK 体育館 研修棟会議室

出席者：【委員】坂井智明（委員長）、木綿富美子（副委員長）、斎藤順子、原 賢志
伊藤徳朗（企画防災課長）、桜井康久（財政課長）

欠席者：【委員】佐合寿子

【事務局】若尾浩好（環境文化部長）

大竹康文（文化スポーツ課長）

勝 泰彦（緑化公園課長）

秋山 登（緑化公園課）

三品文則、近藤信介、富士友紀乃、佐藤美千世（文化スポーツ課）

細江恭平（企画防災課）

【指定管理者】（公財）多治見市文化振興事業団、感謝と挑戦のK G I グループ

内容／ 委員紹介・事務局紹介

委員長・副委員長の選任

会議の公開・非公開の決定について

指定管理者評価

①各施設説明

（事業概要説明・質疑）

②評価

（事務局評価案説明・質疑・評価）

以下、委員会の内容について、質疑等の要点のみ記載する。

【指定管理者の評価】

《各施設説明》

■文化会館

○ コロナ禍で、なかなか以前のように外に出て行う事業がやりづらかったと思うが、コロナの状況下で、昨年度もこれだけ学校へ行かれています。今回の経験を生かして今後も続けてやっていきたいという思いや、やり方の工夫をどうされていくのか教えていただきたい。

→ 〈指定管理者〉

2年度は学校側が受入れてくれるかと疑心暗鬼の中で計画し、先生方に投げかけさせてもらったが、逆に音楽の授業ができない、通常なら歌ったり、リコーダーをやったりすることができない状況であったため、本物のアーティストの演奏を聴く機会を大変貴重な機会と思っていただき、13校中9校が応募された。元年度は11校だったので、ほぼ大半の学校に呼んでいただいたことになる。今年度については12校の申込がある。昨年度できなかった事業で、中学・高校へのアウトリーチを進めている。既に芥川賞作家に来てもらい、文章を書いて脚本を作り上げて、文化会館の演劇の事業に結び付けていくということを多治見西高と連携してやっている。これは多治見中学校、多治見工業高校もやっている。冬には多治見西高の吹奏楽部とプロのトランペット奏者と連携し、イベントを作っていくことも進めている。学校の意向もあるが、やれる限りはやっていくということで進めている。

○ コロナ禍で工夫してやっていただきありがたい。学校と連携して音楽のたねを撒いておられる。文化の一番根幹に当たるところをやっていただきうれしく思う。また、市民文化祭も本来なら数日で終わるところを11日間もかけて開催されたのは、準備から対策から涙ぐましいものがあったのではないかとうれしく思う。利用終了後に必ず1時間の消毒・換気時間を確保しているの

も素晴らしい取り組みだが、使いたい方が多かったり、どうしても時間が延びてしまったりと、消毒・換気時間にあてることによって予約がとれないのではないかなどの苦労などはなかったか。

→〈指定管理者〉

多治見市は予約システムを入れている。年次報告書P31の右下の表にあるように、空けておくとも予約が入ってしまうので、清掃などでおさえ予約が入らないようにしている。延長や使いたいという方には文化会館でコントロールして清掃時間を10分に短縮して貸すなど柔軟な対応をし、利用に支障がない形でコロナ対策を徹底している。

《評価》

○ 学校へ行って授業をされたという話であったが、その授業は利用者の人数に反映されていないのではないか。他の事業については、大小ホール事業であれば利用者の人数に重複してくる部分もでてくると思うが、そうであるなら小中学校の人数も来年度以降は利用人数に算入しても構わないのではないか。施設は利用してはいるが、事業に参加したということで、何か反映してもらえば評価してもより実態に即してくると思うがどうか。

→〈事務局〉

通常は年次報告書P10の利用率と利用人数で3ヶ年の平均値と比較し、増えたか減ったかをみて点数をつける。今回はコロナの状況で3ヶ年平均では評価しないことにしているが、予約システムから利用率、利用人数をだしており、アウトリーチで学校などへ行き実施する事業をおよそ何百人と拾ってしまうと現実から離れてしまう。このような評価は総合評価書の「自主事業」でしっかり評価をする。利用人数は館としての利用者を見て、アウトリーチは事業として評価したいと思う。

評価結果：事務局案了承

《各施設説明》

■三の倉市民の里

○ コロナ禍で宿泊は難しいと思うが、昨年度から現在までやられてきて、ここまではコロナ禍でもできる、ここからはコロナ禍で気を付けなければならないという衛生面だけではなく線引きについて、経験を踏まえてどのように考えているかお話をいただきたい。

→〈指定管理者〉

多治見市の方針としても宿泊者を定員の半程度とすること、現在バーベキューを行う際は、同一世帯の家族のみとする方針をだしてもらい進めている。また、ホール等についてもテーブル椅子等は半程度まで削減し、広々と座れるようにしている。収束するかしないか、またワクチン接種なども関わってくると思うが、引き続き対策を徹底していく。事業に関しても多く集まる事業や子どもを主体とする事業は控える。まだまだそういう時期かなと思う。ただし、屋外の事業や家族単位で実施ができるような事業に関しては、開催していきたいと考えている。特に体験農園といった事業が大変人気で、屋外のイベントや家族単位のイベントを求めている印象であるため、継続開催していきたい。

○ 日帰り利用が141%というのは、このコロナ禍で、皆が何を求めているかに十分対応され、内容を工夫された成果ではないかと思った。年次報告書P53の「観光案内コーナーを新設した」ということは地球村を利用した方の次につながることで、まちづくりや地域の活性化につながる工夫がされている。多分これはいちごやブルーベリー狩りを取り上げていると思うが、それ以外にも近くに自然で見るべきもの、確か多治見市には天然記念物の柿の木があり、そこまで行くことができる。距離があるので歩いていくことは難しいと思うが、そのような案内をされているのかお聞きしたい。

→〈指定管理者〉

今お話があった柿の木は諏訪町に有名な木があり、実際に地球村の窓口まで来てどこにあるか尋ねられるお客様がある。そのような方には丁寧に対応させてもらっている。碎石山ということもありダンプがたくさん通る場所で、なかなか歩いて行くということは難しいと思っているが、最近ではロードバイク等で訪れる方がみえたり、地球村を目的としないで来られるお客様、ふらっと来られるお客様もいたりするので、そのような方への立ち寄り場所といった部分の準備はしている。観光案内コーナーもまだできたばかりで、これからお客様のいろいろな要望をいただき、さらに広げていけるようなことが第一歩の取組みと思っている。非常に需要があり、観光コーナーをゆっくり、じっくりご覧になっている様子も伺えるため、産業観光課などと今後つながり、次のステップに進められたらと思っている。

○ 資料の中に工作キットなどいくつか載っているが、例えば年次報告書P47の大人の工作キットは地球村に行かないと買えないものなのか。それともインターネットなどで販売されているのか。

→〈指定管理者〉

やはりどこでも手に入れやすいものは魅力的ではないと思う。ただし、我々も購入する場所は限られており、極力お客様があまり探すことができないようなもので、何か興味を持っていただけるのではないかなというものをインターネットやディスカウントストアなどで探しながらリストアップしている。在庫を多くかかえることはできない為、少しずつ変えて工夫しながら準備している。

《評価》

評価結果：事務局案了承

《各施設説明》

■総合体育館、指定公園及び運動場

○ 工夫して運営していただいている。マスクをした状態で運動をして熱中症で倒れてしまうような事例も新聞などで取り上げられているが、コロナ禍で施設を使う上でどのような対応をされているか。また、コロナ禍で子どもたちが籠ってしまっているため、体力の低下を心配する声がある。自主事業を拝見するとKG Iの売りになるようなプロやメダリストを招へいするような計画をされていた。昨年はコロナの関係で難しかったと思うが、その見通し等についてお話をいただきたい。

→〈指定管理者〉

総合体育館は、コロナ対策として入場時に検温、体調チェック、各教室は所管課と連携しながら競技場の利用人数や観客席の収容人数は半分に、トレーニング室は30名までに、館内にはソーシャルディスタンスを守っていただく、ロビーで食事される方は黙食を、トレーニング室では黙トレをお願いしている。競技中に関しては、主催者に基本的なスタンスを伝え、その上で競技中のマスク着用は、主催者にお任せすることとしている。軽度の運動についてはマスクを着用してもらい、そのことにより息苦しくなり体調不良になるようであれば、判断してもらい外すなどのスタンスである。

屋外は室内と違いオープンスペースのため、屋内より厳しくしてはいない。競技場についてはシートに従い検温チェック、密にならないよう管理人による指導をしている。管理人が在籍していない無人の施設については、特にこれといったことはやっていない。

二つ目の質問の自主事業は、第1期では一番大きいのが中日ドラゴンズで、昨年度計画していたが残念ながら中止取りやめとなった。それ以外の細々としたものは実施している。第2期について、実は第1期で期待が大きかったところをうまく実現できなかったため、5年間のうちでやるというスタンスだった。そういうレベルではなく、第2期については、基本的に毎年度いろいろなことをやっていくというところで、3年度は12月に中日ドラゴンズを陸上競技場で、3月については実際進捗段階だが、バドミントンの藤井瑞希選手、オリンピックで初めてダブルスで金メダルをとった人のクリニックを。また3月にTリーグの卓球の教室がある。利用の活性化とい

うところで、なかなか稼働にならない施設、例えば運動広場、体育館では幼児体育室、また平日夕方の競技場、そのような所を無料開放、自主事業の枠を設けて利用の活性化を第2期では追加して進捗している。

- 指定管理者に期待するところは、施設の管理やそれを生かしたプログラム編成にあると思う。もう少し踏み込んで、各種スポーツの楽しさを体験する、多治見市の地域性などを踏まえてということ期待する。そういう所まで踏み込んだ事業者もいるが、(KG Iには)少し物足りなさを感じる。補足するようなことがあれば教えていただきたい。

→ (指定管理者)

屋外では、FC岐阜のかけっこ競技は、国体のトップになられた方が先生で、実際走るにはどうしたらいいか、子どもたちの基本的なことを含めてやっている。また、名古屋学院大学の方でやられていることについても、小さな子どもたちに走ることを楽しんでもらおう、意識を持ってもらおうということで行っている。ボールで遊ぶのは、野球人口が非常に減ってしまい、実際やられているのは多治見高校の野球部のOB.OGで、自分の出身の野球部がどんどん衰退していくことを非常に危惧され、実際に子どもたちを集め、野球の楽しさを教えている。やっていただいているのは、多治見高校出身の方で、南ヶ丘中学校の教頭先生、多治見中学校の体育の先生などが中心になって、学生も入れてやっている。

総合体育館では、業務報告書P23~30に自主事業を掲載。大きく分けて生涯スポーツ振興事業という所では、各種目の大会系はバドミントンのふれあいダブルスバドミントン大会、ラージボールでオープン大会、卓球のピンポン大会、ソフトバレーボール大会、それ以外に直近はやっていないが、車いすのバスケットボールで若鯨会、バレーボール協会に協力しトップアスリート未来プロジェクトなどが主な事業である。また、無料開放デーを毎年行い、トレーニング室、卓球室、個人利用のバドミントンなど年1回無料開放かつ地域の種目協会に協力いただき体験教室及び各種の定期教室実施している。実績についてはP24に詳細を掲載している。

- スポーツは、中・高校生の部活動の種目を中心に考えがちであるが、若い世代はスケートボードや自転車BMXなどどんなスポーツが広がるかわからない。その若い人たちのニーズにいかに対応するかということが大事である。配布資料の中のトラブル対応P16で、星ヶ台の第1駐車場でスケートボードをやっている子が喫煙をしていたことについて掲載されている。「巡回中に自転車の曲乗り」と書いてあるが、若い子らに言わせると自転車BMXの種目だと言うであろう。そのような意識の改革が私たち世代にも求められているのではないかと。指定管理者だけでなく市全体のことになってくると思うが、若者の感覚に近づいていけるような対応であってほしい。

→ (指定管理者)

中津川にスケートボード専用のコースがある。駐車場や広い所でスケートボードをしている若者たちに声をかけると、「多治見ではやるところがない。」「他のところは河川敷を提供してくれる。」「中津川のような専門の所しかも無料で使えるような設備を是非作ってほしい」との話をよく聞く。やはりお金がかかることであるため難しく、できるだけ迷惑がかからない所を探してと言っている。一つ案として、滝呂球場を使ってはどうかという業者の申し出があった。そこで調べたが、フェンスで囲ってあり突起物が多く、けがをする恐れがあるため無理ではないかと保留の状況になっている。やはり狭いところではなく、それなりの設備が整っていて安全、安心にできる所を提供しないと、提供した方が責任をとることになってしまい、非常に難しい問題である。迷惑がかからないところでやってもらうよう優しく対応しているが、彼らは道具を持参し、星ヶ台の駐車場でやっているため禁止としている。

- 彼らのやりたい気持ちをうまく汲んでほしいと思う。あと1点、屋外のサッカーゴールを鉄からアルミに換えたとのことだが、スポーツ省のゴール等の転倒による事故防止対策という資料がでており、持ち方や倒れないようにするためにはなどかなり厳しく、実際のデータもあげて報告している。重い物から軽い物になるため対応が変わるが、今後どのような対策を計画してみえるか。

→ (指定管理者)

鉄製は非常に重い、さらにアンカーを打つように貼り紙をゴールに貼ってある。今度はアルミに換わりとても軽く倒れやすい。アルミ製は倒れないようアンカーをきっちり打つように指示

するような策が必要だと思う。

- 強風では重い鉄製に比べ、アルミ製は倒れやすく非常に危ない。死亡事故の例も出ている。安全管理をしっかりとってほしい。

《評価》

- 点数についての異議はないが、昨年の評価委員会にも言われていたが、6年前の提案書にいろいろ事業をやるとありながら、なかなか進んでいないとのことであった。先ほどの説明では、昨年度大体のものは実施し、どうしてもできないものがコロナによりあり、その事業については今年度以降にやるとのことであった。実態として提案された事業はほとんどクリアできているということではよかったか。

→ 〈事務局〉

第1期目の5年間について、指定管理者に細々とした事業まであげてもらい350程の事業ができているかチェックしてもらった。その結果、85%程は実施できている。細かい事業については、ほぼできているというもの。ただし、前回提案の時にあった予定収支を超えている場合、市へ還元すると大きなフラグを掲げていたが、その点についてはコロナの状況もあるが、結果としては達成できていない。

- 今日配られた資料のP4の収入状況で、自主事業の金額が、平成28年は269万円、令和2年度は567万円とある。このあたりは先程委員が指摘されたような自主事業を充実してきたとみればいいのか金額からみてもどうなのか。

→ 〈事務局〉

コナミスポーツは国内でもかなりシェアの高いスポーツ振興事業者であり、ノウハウやスキルを持っているところであるため、きめの細かいスポーツ振興事業を自主事業でやられている。額面と平行して伸びているとは言えないかもしれないが、事業自体は、幅広く非常にたくさんやっている印象である。

評価結果：事務局案了承

全体の講評

令和2年度は、どの施設もコロナの影響を大きく受けることとなった。

しかしながら、コロナが何者かわからない中、休館を余儀なくされ、開館しても利用制限がある中で、指定管理者は様々な事業展開を継続した。

それは、指定管理者の説明にあったように、「リスクがある中で、中止ではなく、どのように実施していくか」を考え合った結果である。その考えは、市民の生きがいややりがいに必ずつながってくる。

この流れは、将来、何らかのかたちで実を結ぶものと期待している。

また今後、コロナがどういうものかがわかってくる中で、どのような事業を展開していくかを期待したい。